

接し方のポイント

◇ 本人を否定したり、叱ったりしないで

災害時の不安から大声や異常な行動が出て、本人を叱ることのないようにしましょう。妄想や幻覚のような話の場合でも強く否定したりせずに、相づちをうちながら聞きましょう。受容的な態度を忘れないようにしましょう。

◇ 冷静な態度で

サポートする方は、つとめて冷静な態度で行動することも大切です。周囲の心の動揺は思った以上に伝わるものです。

◇ 不安感をやわらげることを心がけて

「大丈夫ですよ」と優しく声をかけ、状況を具体的にわかりやすく、ゆっくと簡潔に説明しましょう。状況を知ることによって不安がやわらぎます。

6. 知的障害のある方をサポートするとき

知的障害があるということ

困っている事柄を周りに上手に伝えられなかったり、恐怖で動けなくなったり、パニックに陥り乱暴な行動をしてしまったりすることがあります。大声や異常に思える行動の原因は、災害時の「不安・恐怖」です。

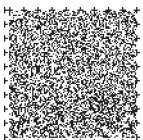
過敏になっていることがあるので、大きな声を出したり、叱ったりしないで下さい。不必要な刺激がかからなければ、しだいに落ち着きます。

強い不安や発作（パニック等）が続くような場合は、本人が携帯している災害時緊急カード等を参照して、保護者や医療機関に連絡し指示を受けて下さい。

📍 ポイントは「本人の安心（感情のサポート）」です

まずは…本人に確認

- 声をかける前に近くに保護者がいるかどうかを確認する。
- 名前や連絡先を聞く。
- 本人が言えない場合は、書いたものを持っていないかを聞く。探す。
- 連絡がとれるようであれば、保護者等に連絡する。
- 安心するように言葉をかけながら、一緒に避難所へ向かう。



声かけのポイント

◇ 「ゆっくり・はっきり・明瞭に」を心がけて

- ・必要以上には大きな声で話しかけないで下さい。
- ・声が大きいと怒鳴られているように感じる場合があります。
- ・緊急性や危険性を声の大きさを伝えようとししないで下さい。

◇ 短い文で、ひとつのことを

- ・話をする場合は、一度に多くの内容を盛り込まないで下さい。
- ・簡単な言葉を用いて短く切って下さい。
- ・意味のつながりで区切って話すと伝わりやすくなります。

＜例＞名前を／教えて／下さい。

◇ できるだけ肯定的な表現

- ・「危ない」「怖い」といった否定的な語感のある言葉も、できるだけつかわないで下さい。
- ・「危なく・ない」「怖く・ない」といった表現も、わかりにくく、混乱を招く場合があります。

＜例＞危なくないところ → 安全なところ 等

怖くないところ → 安心できる場所、静かな場所 等

◇ 理解しているかどうかを本人の様子などから確認

- ・理解していなくても、反射的に「はい」と言っている場合もあります。
- ・一問一答のように、確認しながら話して下さい。

緊急性が高いとき

(恐怖で動けなくなっているときなど)

◇ 軽く手を引くか、肩に手をかけて、ゆっくり誘導

- ・恐怖心を与えないように、「急」のつく動作に気をつけて下さい。
- ・必ず誰かが付き添い、一人にしないようにして下さい。

★知的障害のある人も、その人なりの様々な行動で、不安や恐怖に対処しています。

★一見、奇異に思えるような行動でも、危険に直結しない場合は、本人の行動を無理にとめないで下さい。

